

認知症の理解深める

大江病院初のサポーター講座

帯広市内の大江病院（大江平院長）は21日、管内19市町村の住民や医療・介護関係者を対象とした初の認知症サポーター講座を開催した。同院の認知症看護認定看護師の大森亮子さんが「認知症をもつ人との理解とかかわり」をテーマに患者との接し方などを話し、参加者によるグループワークを通して認知症に対する理解を深めた。

地域で認知症の人や家族などを支援する「認知症サポーター」の講座は、地域包括支援センターが各市町村と連携して開いている。大江病院は初めて管内全域を対象とした勉強会を単独で企画した。帯広に加え、町村からも多くの患者や家族が外来診療を利用している実情を踏まえ、広域を力



認知症の基礎知識や患者との接し方について話す大江病院の大森看護師

バーする形にした。

講座には帯広市、芽室町、音更町などから約20人が参加した。大森看護師が「認知症にはアルツハイマーや脳卒中などを原因とする代表的な事例に加え、さまざまな疾患が同様の症状を引き起こす」と説明した上で、「薬物療法に使用される薬は4、5種類のみで、改善には人の力を頼る部分が大きい。正しい知識と、患者の病前の性格、生活習慣から想像力を働かせて、最適なサポートをしてあげてほしい」と話した。

大江病院は今後、認知症サポーター講座や、症状への理解を深める集いを定期的に開催する予定。

（奥野秀康）